



2023年5月11日

各位

会社名 ニプロ株式会社
代表者名 代表取締役社長 佐野 嘉彦
(コード番号：8086 東証プライム)
問合せ先 常務取締役経営企画本部長 余語 岳仁
(TEL 06-6310-6804)

業績予想と実績値との差異および剰余金の配当に関するお知らせ

2023年2月8日に公表した2023年3月期(2022年4月1日～2023年3月31日)の通期連結業績予想と実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、同日にお知らせいたしました通り、2023年5月11日の取締役会において、配当方針の変更とともに、2023年3月31日を基準日とする剰余金の配当について以下のように決議いたしましたので、お知らせいたします。なお、本件は2023年6月28日開催予定の第70期定時株主総会に付議する予定です。

記

1. 2023年3月期通期連結業績予想数値と実績値との差異(2022年4月1日～2023年3月31日)

(1) 業績予想と実績の差異

(単位 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	549,000	19,000	18,400	10,000	61円31銭
実績値(B)	545,199	17,729	15,346	4,574	28円05銭
増減額(B-A)	△3,800	△1,270	△3,053	△5,425	—
増減率(%)	△0.7	△6.7	△16.6	△54.3	—
(ご参考)前期実績 (2022年3月期)	494,789	23,882	27,583	13,455	82円50銭

(2) 差異が生じた理由

売上高につきましては、医薬関連事業および医療関連事業に属する医薬品販売事業の売上収益が想定ほどに伸びなかったことが主たる要因です。

営業利益につきましては、一部研究所における治験費用の計上もありましたが、概ね売上高未達に伴うものです。

経常利益につきましては、トルコ子会社における超インフレーション会計適用による損失に加え、持分法適用会社での損失が増加したため、想定した利益を下回りました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、超インフレーション会計による損失をはじめ、税務上損金計上できない損失の増加に加え、親会社単体での課税所得が減少したことにより、それらを裏付けとした短期の繰延税金資産の計上ができなかったために税金費用が想定よりも大きく計上され、税引後利益が予想と乖離する結果となりました。

2. 剰余金の配当について

(1) 配当の内容

	決議内容	直近の配当予想 (2023年2月8日公表)	前期実績 (2022年3月期)
基準日	2023年3月31日	同左	2022年3月31日
1株あたりの配当金	8円50銭	8円50銭	12円50銭
配当金の総額	1,391百万円	—	2,064百万円
効力発生日	2023年6月29日	—	2022年6月29日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

(2) 理由

当社の配当方針は、連結当期純利益(親会社株主に帰属する当期純利益)の75%と単体当期純利益の25%の合計額を配当の基礎となる利益額とし、2023年3月期についてはその35%を配当に充当する予定としておりました。2023年3月期につきましては、予想と実績で法人税等調整額が大きく乖離して、税引前利益に対する税負担率が異常な数字となってしまったことを勘案し、税負担率を本来の理論値に調整することで利益還元を行う方針とさせていただきます。乖離した大きな理由は、赤字子会社の損失増加による評価性引当額の増加や超インフレ会計による損失の発生など、税効果のとれない損失の増加が主な要因です。

次期以降の配当に関しましても業績連動の利益配当方針は維持しつつも、長期的な視点に立った安定的な配当を継続する方針で現在検討をおこなっており、具体的な配当方針の詳細につきましては、決定次第改めてお知らせいたします。

(ご参考)

	第2四半期末	期末	年間
前回発表予想(2023年2月8日)	13.50円	8.50円	22.00円
当期実績	13.50円	8.50円	22.00円
(ご参考) 前期実績	14.50円	12.50円	27.00円

以上